

第3回 厚別南・青葉地区新設義務教育学校検討委員会 議事録

開催日：令和8年3月24日(火)

場所：青葉中学校

出席者：青葉中・新札幌わかば小校長、地域代表(自治連・町内会)、学識経験者、市教委オブザーバー ほか

1. 会議の目的と位置づけ

当初の計画から延期されていた新設義務教育学校について、「令和11年度(2029年度)開校」という新たな目標に向けた「再始動」の場として開催。今後はハード面(建築)から、校名や教育課程などのソフト面の検討へと移行する。

2. 決定事項

設置要綱の承認：委員会の目的や組織体制を明文化。

役員体制：代表に青葉中学校長、副代表に新札幌わかば小学校長が就任。

委員の任期：原則として開校前日(令和11年3月31日)までとする。

地域委員については、役職交代時も「継続性」を重視し、本人の意向や団体の推薦に基づき柔軟に対応する。

3. 主な意見と議論の内容

① 地域と学校の連携について

強みの活用：豊かな自然(リスの生息、中央公園)と、新札幌の利便性が共存する地区の特性を教育に生かすべき。

交流の場：広いグラウンドを活用し、かつてのマラソン大会のような「地域と学校が混ざり合える行事」の復活を期待する声があった。

地域の融合：新しい学校が「青葉」と「厚別南」の両地域をつなぐシンボルとなることを目指す。

② 義務教育学校の教育課程(4-3-2制など)

メリット：異年齢交流(中3が小1に教える等)による自己有用感の向上や、中1ギャップの解消。

慎重な議論：学年の区切り(4-3-2制など)については、他校の事例(5-4制など)も踏まえ、メリット・デメリットを丁寧に議論して決定プロセスを残すべきとの指摘があった。

③ 校名決定のプロセス

スケジュールの厳守：令和7年度中に校名を決定するタイトな計画だが、校章・校歌制作へ連鎖するため遅延は難しい。

周知の重要性：「開校延期の経緯」や「本格始動」を知らない住民も多いため、唐突に公募を始めるのではなく、事前の丁寧な広報が必要。

4. 今後の検討課題

校名決定の手順策定：4月の次回会議にて、アンケート方法や公募のルールを検討。

ワーキンググループの検討：効率的な議論のため、実務的な小委員会(WG)の設置を検討。

住民への周知活動：議事録の公開を含め、地域住民が置いてきぼりにならない広報戦略の実施。

教育課程の精査：9年間をどう区切るか、本地区に最適な形を継続して協議。

補足：

次回(第4回)は4月下旬に開催予定です。